

第八次福井市総合計画審議会 専門部会 第3部会(第1回)

■日 時:令和3年4月20日(火)17:00~18:30

■場 所:福井市役所 本館3階 第3会議室A

■出席者:別紙のとおり

■会議内容

1.開会

司 会

それでは、定刻となりましたので、総合計画審議会 専門部会 第3部会の第1回目を開会いたします。開催にあたりまして、総合政策課課長からご挨拶を申し上げます。

2.あいさつ

事務局

委員の皆様方におかれましては、公私ともにお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日から専門部会で、委員の皆様方には第八次総合計画の素案について詳細にご審議をいただくこととなります。委員の皆様方それぞれのお立場から活発なご意見をいただきますことで、総合計画が本市の明るい未来へのかけ橋となることを願っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司 会

続きまして、部会長の南保委員からご挨拶いただきたいと存じます。

部会長

皆さん、こんにちは。第1回の全体会を私、欠席しまして、大変失礼いたしました。

今日は、第3部会の第1回の専門部会ということで、農業分野と商工の分野、このところについていろいろ各委員のご忌憚のないご発言を期待しているところでございます。

結構、去年は私も1年間コロナ禍で何もできないという状況だったんですが、その中で福井のすごい活力といいましようか力強い一面も見たところでございますので、今回の総合計画にはそういった面も反映しながらまとめていければと思っていますので、ご協力のほどよろしくどうぞお願いいたします

3.自己紹介(略)

4.副部会長の指名について

司 会

福井市総合計画審議会条例では、「副部会長は部会長が指名することとされておりますので、ここで部会長に副部会長の指名をお願いいたします。

部会長

それでは、条例に基づき副部会長を指名させていただきます。

商工会議所の高見専務様にぜひお願いしたいと思いますですが、いかがでございましょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

部会長

では、高見さん、よろしくどうぞお願いいたします。

司 会

それでは、条例第6条に基づき、部会長に議事の進行をお願いしたいと存じます。

部会長、よろしくお願いいたします。

5. 議事

(1) 政策9「農林水産業に関する政策」

部会長

では、これからは私が議事進行させていただきます。

この第3部会では、産業分野「生き活きと働くまち」の政策及び施策について審議いたします。

部会の進め方については、先日の全体会で事務局から説明があったりしており、全3回の専門部会のうち、まず第1回と第2回で素案に示された政策及び施策について委員からご意見を伺います。その後、第3回では、各委員からのご意見を踏まえた素案の修正内容について審議いただくといった流れで進めていきたいと存じます。

第3部会では政策が3つありますので、本日は政策9「農林水産業に関する政策」と政策10「商工業に関する政策」について審議を行ってまいります。

なお、審議に当たりましては、委員からのご意見をできるだけ多く拝聴したいと思っていますので、事務局からの説明は簡潔によろしくお願いいたします。

それでは、政策9の審議を始めます。

本日は追加資料があるようですので、その件も含めて事務局から説明よろしくどうぞお願いいたします。

事務局

よろしくお願いいたします。まず、本日卓上にお配りした追加資料について説明いたします。この資料は七次総合計画と八次総合計画の比較表でございます。参考資料として、適宜、参照いただければと思います。

それでは資料4素案の10ページ、政策9「農林水産業に関する政策」をご覧ください。

まず、資料左側の現状ですが、農林水産業の振興は、安全・安心な食の提供や、自然環境の保全、水資源の涵養(かんよう)など、私たちが生活していくうえで欠かせないものです。しかし、米価等の低迷や漁獲量の減少、従事者の高齢化による担い手不足など、農林水産業を取り巻く環境は依然として厳しい状況となっています。

ここで、お手元の資料「参考資料 福井市の現状データ集」P64ページをご覧ください。農業に関するデータです。この資料右側の折れ線グラフをご覧ください。本市における農業従事者の平均年齢の推移を示しております。年々、農業従事者の高齢化が進んでおり、平成27年では平均年齢が70.0歳となっています。

次に65ページをご覧ください。

漁業に関するデータです。資料左側の折れ線グラフは、漁業従事者における高齢化率を示しております。平成30年の漁業従事者の高齢化率は59%となっています。また、資料右側の棒グラフ

は漁獲量の推移を示しており、平成30年は、20年と比べて、すべての漁種において、漁獲量が減少しています。これらのことから、今後、さらなる就業者の育成や、経営の安定化、所得の向上などに向けた取組が必要となります。

ここで、資料4にお戻りください。第八次総合計画の農林水産業に関する政策では、こういった背景を踏まえ、次の4つの施策をかけたました。

まず「1 スマート農業等新たな時代に対応した農業を推進する」についてです。

ドローンや情報通信技術等を活用し、省力化や高品質生産を実現する「スマート農業」の導入を支援してまいります。また、次の世代を担う若者が参入しやすい就農体制づくりを進めます。

次に「2 ブランド化や販路開拓等新たな可能性にチャレンジする」についてです。

福井の食に関する販売イベント等を通じて、本市の食の魅力を積極的に発信し、認知度の向上を図ります。三里浜砂丘地で生産に取り組んでいるオリーブなどについて、新たな産地化やブランド化を図るとともに、ECサイトなどを活用したマーケティングを展開し、販路開拓を進めます。

次に「3 稼げる林業と水産業を推進する」についてです。

林業では、新たに創設された森林環境譲与税を財源として、森林整備や木材利用の普及を推進します。また、ICT等の活用による生産性の向上や、事業者の連携強化により、県産材・市産材の供給体制の強化や需要拡大を図り、稼げる林業の構築を進めます。水産業では、現在、水温や潮流、魚群探知機の画像データなどをリアルタイムに漁業者のスマートフォンに発信するIoTやICT等の技術が開発されています。これらの技術を活用した計画的な操業などの「スマート水産業」を推進していきます。このほか、都市部で開催される就業支援フェアなどを活用した農林水産業の新規就業者の確保、サポートや、就業環境の改善等により、担い手の育成に努めます。

最後に「4 農地・農村の環境を守り活性化を図る」についてです。

中山間地域において、自然や食を活用したコミュニティビジネスなどが展開できるよう、集落活性化への支援を進めます。また、有害鳥獣の捕獲にICTを活用するなど獣害対策の効率化を図り、農業・生活被害の低減を図ります。

以上で、政策9「農林水産業に関する政策」の説明を終わります。

部会長

それでは、ただいまの説明を踏まえて、素案について委員の皆様からご意見等をいただきたいと思いますが、今ご説明を聞いたところ、農林水産業、どの分野も大変厳しいなというのを感じ取りました。

委員の先生方からはご忌憚のない、この環境をどのように打開するかということも含めて、今回の農林水産業に関する政策についてご意見をいただきたいと存じますが、いかがでございましょうか。どうでしょう。私のほうからお願いをしてよろしゅうございますか。

委員

今日配付された資料の政策9の①「スマート農業等新たな時代に対応した農業を推進する」について、基本的には、第七次で農業を強化するというそれを継続しているのだけど、新しく「スマート農業」というのが入っていますよね。これが目玉なんだろうと思うのだけど。この後、素案がある程度固まったところで実施計画もつくられるんだと思うのですが、その実施計画の中身が問題なんだろうというように思います。

「スマート農業」と言って予算が100万円だけですか、そんなのでは話にならないだろうし、それなりの今後の展開次第でこれがだめになるかどうかという、従来の延長上にあるのか、本当に

そこからランクアップしていくのかというようなところは、実施計画の中身で決まってくるのではないのかなと思うのですよね。

言うことは、スマート農業、新しい時代に対応した農業を推進する。文句ない言葉だと思いますので、この後に注目しております。

部会長

ありがとうございます。絵に描いた餅にならないように、リアリティのある実行というふうなご意見でございました。

委員

私の夫の実家は兼業農業をやっているのですが、将来、自分の子どもたちにも帰ってきてきちんと農業を継いでほしいという観点で「生き生き働けるまち」というふうを考えていたら、若者は農業あるいは水産業、林業全般ですけど、カッコよく感じてもらわないとやりたい意欲が出てこない。そこら辺の若い人が、例えばすごいクリーンな農業をやっている方もいらっしゃると思うのですが、そういう方の発信とかはあまりない感じがします。もしそういうのが見えてくる、しかも自分たちの生活の保障があるんだったら、それもすごい魅力を感じて、もうちょっと積極的にやりたくなるのではないのかなと思います。

私のふるさとの台湾のほうですが、スマート農業と同じように、デジタルツインという観点で新しい農業というふうに取り組んでいるところなんです。それは全世界でも今、台湾とオランダだけが率先してやり始めている方法みたいなので、確かにさきほど委員が言うように、予算がすごく大きくなりますよね、スマート農業というのは、確かにこれからの時代はこれほど大事なもので、ぜひこの予算はきちんとあってきちんとやれるようになるのが大事かなと思います。

部会長

ありがとうございました。若者への情報の発信と、それからやはり生活保障というところですね。

先ほど私もちょっと言いそびれたんですが、スマート農業と言葉で言うのは簡単ですけど、実際にこれを進めていく上ではいろんなやはり問題もあると思いますので、そこら辺も含めて対応できるような形に持っていかなければいけないと思います。

委員

最新の技術を活用して農業や漁業などを活性化させる点はいいと思うのですが、やはり予算の面では問題になってくる。そこと、あとはスマートICTを活用するということは多分民間とも連携するんだろうと思うのですが、その民間との連携がどこまで進めているのかが気になっています。

部会長

そうですね。おっしゃるとおりだと思います。

総合計画の一番上位計画ですから、今、各お三方とも予算の話が出ているんですが、ここでなかなか予算づけが難しいですけれども、できるだけ潤沢な予算をつけて、ICTあたりを特に重点にして動かしていくということが大事なのでしょうし、委員がおっしゃったように連携ですよ。これはもう民間連携、官民連携、いろんな連携があると思うんですが、FOIPというふくいオープンイノベーション推進機構というのがありますが、そこで私も関わっているのは、オープンイノベーションで、技術ノウハウのオープン化を図って連携していこうというような動きが産業界では今非常に強くなっていますので、そういった連携ということも重視していかなければいけないなど改めて思いました。

委員

今ほど農林漁業の政策ということでお聞きしたんですが、冒頭でもまさに事業者の高齢化というこ

とでいろんな問題が出ています。その中で、スマート農業を含めた中で、ある程度若手の意欲ある生産者を育てていこうというような取組は非常にいい取組だと思っています。しかし今、現場の中で起きてることについては、農業収支の部分かな、というふうに思っています。そこら辺を市場関係あるいは地域の農商工連携の中でどのようにして補填をしていくかというのが非常に課題になってきているかなというふうに思っています。

やはり農業をしていくためには、収支が黒字になることが前提だというふうに思っています。再度そこら辺を踏まえて、対応をぜひよろしく申し上げたいと思っています。

部会長

ありがとうございました。採算性というか、そこら辺をどう見ていくかというところが鍵になるなというようなことを改めて思いました。ありがとうございました。

委員

農林水産業は私、素人なものですから、あまり大したことは申し上げられないんですが、観光の視点から。私、教育旅行をかつて専門に扱っておりました、今どこの農林水産業も後継者不足ということが一つの課題になっていると思うんですが、一方で、都会の子どもたちに対して漁業体験とか農業体験をさせるという学校が非常に増えているという流れがございます。恐らく都会で暮らす子どもたちが一次産業に触れる機会がもう今ほとんどないという現状の中で、私たちの暮らしを支えている一次産業をじかに体験させることで、子どもたちに学びや気づきのきっかけを与えるということが非常に重要だということが認識されているからだと思うんですけども。

それでいつも思いますのが、出迎えてくださったおじいちゃん、おばあちゃんが非常に子どもたちの笑顔を見てやる気が出たとか、やりがいを感じるとか、そういう声をすごくよく聞くものですから、ちょっと本筋とそれてしまうかもしれませんが、実際にその仕事に従事している方々のやりがいや働きがいにつながるような施策というのが求められているのではないかなということを感じましたので、感想で申し訳ないんですが、述べさせていただきます。

部会長

いえ、大変いいご意見だと思います。

未来の農業を見ていく上では、人づくりというのは重要な視点でございますので、そういった意味で、子どもたちの教育の立場から、農業体験等を通してながら人材を育成していくというふうなご意見かと思えます。大変いいご意見だと思います。ありがとうございます。

委員

私もあまり農林水産業は詳しくないんですけども、農業、林業、水産業も含めてですけども、現状はやはり専業農家はほとんどいらっしゃらず、圧倒的に兼業農家さんが多いと思うんですね。兼業であっても、いろんな事情から、例えば高齢化とか、あるいは農業機械がないとかいうような事情で、それをまたどなたかに作業代行あるいは業務委託という形をお願いをしてやっているところが圧倒的に多いと思うんですね。

そういった中で、最新の農業機械、例えば自動走行の農機とか出ていると思うんですけども、そういったものは多分圧倒的に価格が高くて、自分ではなかなか手が出せないということもあるかと思えます。

そういった場合に、一人でなくて、ご近所何軒かでそうした機械をシェアしながらやっていくのであるとか、あるいはまた作業自体をどなたかに委託する場合も共同で委託する。

自治体というか、町内によっては農業生産組合みたいなのが多分あるのだろうと思うんですけど

も、そういう形で何らかの機械とか、そういうどこかに委託するに当たっても何らかのそういった一定の補助というのが少しでも受けられるのであれば、そういうことも進んでいくのではないのかなというふうに思います。取りとめもない意見ですけれども、よろしくお願いします。

部会長

いえ、ありがとうございます。そうですね。できるだけ省力化を図るためにも農家同士の連携というのは重要な切り口だと思います。ありがとうございます。

副部会長

農業はずっと減少していくのだろうと思うのですが、委員もおっしゃっていたように、いわゆる法人化、大規模化の農家がしっかりこれから支えていかないといけない。そうではないと、スマート農業なんてとても機械は買えませんし、兼業の農家では全く手が届かないような感じになってくるので、その育成をしっかりとしないと。言葉はきれいなのですが、機械の導入だけではなくて、多分、社会の高齢化に伴って65歳で会社を定年になった人が、そこから農業法人で地域で働くとかになっていて、その方々も結構体が疲れてきて、現場では農業法人そのものも結構苦しんでいるというような課題があるようなので、その支援というのをしていかないといけないのかなというのと、そこがしっかりもうからないと前に進んでいかないといけないのかなという思いです。

漁業のほうも、どんどん減ってはいますけど、何かこれは人が増えればいいのか、それともやはり所得を上げるためのもっと方策をすべきなのか、そこら辺も書いてある政策自体は全然間違いはないんですけど、それを事業に落としていくときに、いろんな課題を現場のほうで見て解決していかないといけないのではないのかなというふうに思いました。

部会長

ありがとうございます。

政策9の4つの中から、主に施策①のICT系のご意見とか、あるいは③の稼げるご意見とか、あるいは教育を通じた環境を守り活性化を図るというふうなご意見もいただいたかと思います。

ただ、施策②のブランド化や販路開拓等新たな可能性にチャレンジするということで、もう少しアグレッシブなご意見でもあればいただきたいと思いますが、ここにはついては何かご意見ございませんでしょうか。

副部会長

オリーブだけ特出しされているんですけど、オリーブは面白い取組だと思うし、国内で生産しているのは小豆島ぐらいですかね。北陸でできるというのは非常にすばらしい。これがマーケット的にどれぐらい大きくなるというか、先がもう少し分かるといいなという気がしますけれども。

事務局

オリーブなのですが、今現在、白方のほうに1,800本ほど植えてございまして、今年、2,000本に達成するのかなというふうに思っております、将来的に令和7年に3,000本を目指してオリーブ栽培に取り組んでいるところでございます。

昨年ようやく実を絞ることができまして、オリーブ生産組合が今年、搾油機を2台購入しまして、搾油も本格的に行っていて、販売もここに書いてあるECサイトで販売をしていこうかなというふうに今考えております。

部会長

ありがとうございます。私も意見を言っていていいですかね。

非常に各委員、先生方からいいご意見をいただいたんですが、これは商工業とも関係してくるのですけれども、先ほど冒頭でご挨拶したときに、昨年、福井県に結構底力があるというふうな発言をさせていただいたんですが、実は開発力もすごく豊かで、私は、開発力のある企業をまとめて、命を守る産業分野の転換が進んでいるという言い方をしたんですね。これはマスクを作ったり、防護服を作ったり、フェースシールドを作ったり工業系が多いんですが、そういったことをやる企業は物すごく増えた。

そういう中で、命を守るというキーワードで農業を考えた場合、先ほどもちょっとお話を聞いたんですけど、なかなかクオリティの高い農業というのは難しいというお話だったんですけども、何かそういう可能性に、「ブランド化や販路開拓等新たな可能性にチャレンジする」というところで、オリーブなども含めて、何かそういうクオリティの高い農業の振興とか、そういうこともどこかに入れ込めないかなというのが私の希望です。

やはりこれからの時代というのは、今回のウイルスや自然災害も含めて、いろんな命の危機的な災害が多く、その中で食というのは私たちが生きていく上で一番ルーツ、原点でもあるわけであって、そのクオリティを高くして、栄養価を高くして、私たちの健康を維持するというふうなことも、今回の、これは商工業も同じなんですが、農林水産業にも当てはまることかなと思ひまして、ぜひどこかでクオリティというかそんなことも入れ込んでいただけたらうれしいなというところでございます。

まだお時間がございますので、あまり会議として固まってしまうと意見がなくなっちゃうんですね。これはフリートークで、思いついたことを話していただいたほうがよっぽどいい議論になると思いますので、どうぞ言った者勝ちで言わないと損ですから、せっかく時間を割いてここにお集まりいただいているので、どうでしょう。

委員

今ほどブランド化とブランド開拓等新たな可能性ということを書いてあるんですが、基本的に、私は販路拡大がそのままブランド化になってくるのかなというふうな逆の立場で考えています。

うちでは、一応平成27年当時から販売戦略というものを立ち上げまして、皆さんご存じかどうか分かりませんが、高野豆腐のみすずコーポレーションさん、女の人は分かっているかなというふうに思いますが、その大豆の50%がJA福井市の大豆を使っています。

その中で一応ブランド化が成立したということで、毎年、それだけの量を納めるのに生産者にプレッシャーをかけてブランド化を図っているという状況になっておりますので、そういう点でも逆に考えますと、しっかりした販売部分を取りながら、農産物を作って所得を上げていくというような方向性も少し考えていただいたほうがいいのかというふうに思っています。

部会長

そのとおりですね。やはり売れないことにはブランドになりませんので。私たちもいろんなブランド化という言葉は聞くんですけども、何かそれだけが先へ行ってしまうと、供給体制が整っているかとか、販路をきちんと確保しているかというところではないんですね。やはりそちらのほうが先になるかなと改めて思いました。ありがとうございます。今のご意見よろしいですかね、事務局、よろしいですか。

委員

一つ気になったことがあるんですけども、ECサイトでブランド化を図るというのは、一つ手はあると思うんですけども、ECサイトと言っても多分どの会社でも、どの企業でも、どの地方自治体でも多分ECサイトは活用してくると思うんですけども、その中でECサイトで勝負するというのは、多分なかなか難しいと思うんです。

そこで、個人的な意見なんですけれども、まず地域でオリーブのことを知ってもらってから少しずつ全国に展開していくというのでもた一ついいのではないかなと思います

部会長

すごくいい意見ですね。私もそう思う。地域が知らないのに、よそで売れるわけないよね。すごい意見だと思います。

やはり地域が知らないと自慢もできないね。そのとおりです。大変いい意見です。

今、私、刹那的にいろいろ委員の皆さんからご意見を聞いたんですが、まだちょっと時間があるんですけど、この4つのスマート農業から農地・農村の環境を守り活性化を図るまでで、言葉尻っておかしいですけど、これは上位計画なので、結構言葉の使い方なんかも引っかかってはいけないというところがあって、そういったことも鑑みながら、施策①、②、③、④と一回見てみたいと思うんですけども。

まず、「スマート農業等新たな時代に対応した農業を推進する」というところで3項目あって、ここについて、この表現とか、これはだめだというのがあったらご意見をいただきたいと思いますが、どうですか、ここは。

水田園芸の拡大や云々、スマート農業、そして研修や農業インターンシップなどの受入れ体制。このところはこんなものですかね。よろしゅうございますか。

施策②「ブランド化や販路開拓等新たな可能性にチャレンジする」です。

今、私はいろいろお尋ねしていますけれども、先ほど先生方からお聞きしたことは何も今考慮してなくて、ここの文字面だけ見てもらっていますので、これプラス、先ほどの意見を加味するという理解をお願いします。

ここはどうですか。これは全然話にならないような言い方をしているところがあればご指摘いただきたいと思いますが、よろしいですか。

先ほど委員から言われたブランドの育成、仕方の話とか、地元が愛する商品作りというのはキーワードにもなるのかなと思いますので、どこか、ブランド化、販路開拓なんかのところ、ちらっとその言葉を入れていただけたらいいのかなというような感じはしますね。

施策③へ行きます。「稼げる林業と水産業を推進する」というところですが、ここについてはいかがでしょうか。よろしいですか。

委員

一つどうしても気になったんですけども、施策①や③とか、先ほどスマート農業などのICTがあったと思うんですけども、ICTといいますと、自分たちで言うと、多分若者のほうが慣れていると思うんですけども、どうしても農業や水産業などはもう高齢化しているから、スマート農業の導入はいいんですけども、失礼になるかもしれないんですけども、年齢的に、導入するまではいいんだけど、その後の使い方などはできるのですか。

部会長

支援していかないと、高齢者がそれに対応できないということですよ。そういった伴走型の支援体制の構築というのにも必要なんだろうなということですよ。いいご意見だと思います。

副部会長

スマート水産業ってどんなイメージなんですかね。

事務局

スマート水産業なんですけれども、定置網のところにブイを立てまして、魚が定置の中にどれだけ入ったかというのを調べまして、今までは行って揚げても全然入っていなかったというのをなくすために、

そういうブイで魚がどれだけ入ったかというのを確認した上で網を揚げるというイメージでございます。

副部長

別に省力化するということで自動化されるわけでもないというのも、ある程度データで量が分かって、それを揚げれば1回当たりの漁獲量が高くなるとか、そういう狙いなんです。

事務局

行っても空振りがないといえますか。そのほかにも、全国的にはいろんなスマートの水産業で、捕れたものが出荷までどういう必要があるとか全部調べるような、そういうこともされているみたいなのですけども、まだ今そこまではちょっと考えられないという状況でございます。

部長

漁獲高はずっと落ち込んでいるではないですか。それってスマート水産業、ICTを進めることによって漁獲量は増えると考えてよろしいですか。

委員

いやいや、そこのところですけども、私も同じ考えなんです、例えば政策9の一番上のところに黒丸が2つありますよね。「農林水産業の振興を図ります」。振興させる。次に、「農林水産業の発展につなげます」。発展させるとは言ってないんですよ。

例えば農家数はどんどん減っています。漁師も減っています。これをやっても、振興を図っても発展につなげようとしても、結局この傾向は変わらないんだという頭が先にあるのではないのかな。げすの勘ぐりですけど。だから、少なくとも今の農家数を維持する、漁業従事者の数を維持する、増やすというような発想から言うと、ちょっと政策がまた変わってくるのかなという感じはしますね。

部長

先ほど私、アグレッシブだと言いましたけど、やはりそこら辺がこの全体計画の中でなかなか表現できないというか、うたえないという厳しさがあるということですよ。そこを私たちは理解しながらこれをつくるということになりますよね。

委員

そういうことだと思います。例えていうなら、先ほどオーブのブランド化の話がされましたけど、ここでは「オーブなど」と書いてあるんですよ。だから、オーブは福井市が非常に力を入れてやっているとあるのでオーブと書いているんだけど、しかしブランド化と言ったって今までもやっていますが、なかなか難しい。ビジネスモデルとしてもなかなかつくりにくいところがあるとは思いますが。総論としてはここまでかなという感じはしましたね。

部長

この全体計画から落とし込んでいく各施策のほうで少しリアリティを含んだ施策を打っていただくということになるんですかね。ぱしっと、これをつくって農林水産が変わるんだというふうには、なかなかそうはならない。やはり努力目標としての段階なんだろうと改めて私も思いました。

いろいろと農林水産業について今ご意見をいただきました。例えば、要はお金がないといけなから採算性を上げていく。そのためのICTの活用とかやっつけていかなければいけないし、ブランド化だってやっつけていかなければいけないけど、これは資料になかったんですけど、委員から、販売をやってやっブランドになるんだから、そこ間違えてはいけないよというふうなこととか、本当にそうですね。

あと、効率化とか、高齢化に対応する施策とかいろいろ、先ほど言った意見がたくさんありますので、まとめられません、全部。ただ、いいご意見ばかりだったので、全体としての政策9の中では、今表現さ

れている言葉云々ではないけれども、少し委員、先生方のご意見をここに落とし込みながら次回にお示しいただけると、さらにバージョンアップするかなということです。そこでまた少し議論を深められればと思いますので、そういった感じで委員の先生方、よろしゅうございますかね、このところは。

一応施策9についてはいろいろご意見いただいたことを生かして、もう一回、次回つくり込みして、またそこでご意見をいただくという感じで。

では、政策9の「農林水産業に関する政策」についてはそれぐらいにしていきたいと思います。

もしも時間が余れば、また政策9でご意見をいただければいいと思いますので、取りあえず次の政策10のほうに入っていきたいと思います。

(2) 政策10「商工業に関する政策」

部会長

事務局から説明、よろしくどうぞお願いいたします。

事務局

それでは、次に、政策10「商工業に関する政策」をご覧ください。

まず、商工業の現状ですが、初めに「参考資料 福井市の現状データ集」69ページをご覧ください。

本市の製造品出荷額等の推移です。工業統計調査によると、本市の産業分野別の製造品出荷額では、繊維工業、化学工業の順に多くなっています。

続いて、一枚おめくりいただき、70ページをご覧ください。

業種別の従業員数と事業所数です。いずれも、本市においては、繊維産業がトップとなっており、繊維産業をはじめ、高い技術を持つものづくり産業が集積しています。

続いて、71ページをご覧ください。

有効求人倍率です。雇用の面では、本県の有効求人倍率は全国トップクラスとなっていますが、2019年度では、求職者が1万人不足している状況となっており、今後も、人口減少や若年層の県外流出による労働力不足が懸念されます。

ここで、資料4にお戻りください。商工業の現状として、今後も、活力あふれる商工業が発展し続けるためには、本市における、ものづくり技術の高度化や、新製品の開発など新たなチャレンジへの支援、また、若者の夢を応援する創業支援などに取り組むことが必要です。また、次世代の担い手である若年層の地元企業への就職を促進するとともに、多様な人材の能力等を活用しながら、安定した労働力を確保する必要があります。

そのため、ここでは、次の4つの施策を掲げました。

まず「1 地域の商工業を振興する」についてです。

デジタル技術などによる新技術、新商品の開発や、販路開拓支援により、企業の「稼ぐ力」を支援します。また、ICTなど成長産業の誘致や、市内企業の事業拡大に対応した企業立地を推進することで、本市産業の発展を図ります。

次に「2 創業の促進と事業承継の円滑化を支援する」についてです。

若者の創業支援や、円滑な事業承継支援により、次世代を担う人材育成に取り組めます。

次に「3 地元で働く魅力を発信する」についてです。

本市企業の優れた技術などを積極的に発信することで、本市へのUIターン就職のさらなる促進を図ります。

最後に「4 多様な人々が活躍できる雇用環境を推進する」についてです。

近年の働き方改革の推進により、一人ひとりの状況に応じた、働きやすい環境づくりがより一層求められております。本市においても、テレワークをはじめ、多様な働き方に対する理解促進など、魅力的な雇用環境づくりへの取組を支援します。

以上で、政策10「商工業に関する政策」の説明を終わります。

部会長

ありがとうございます。

ここもまた4つのキーワードが並べられましたけれども、ここについてまたご意見いただきたいなと思います。やはり去年のコロナ禍で福井県経済は結構強かったんですね。福井市も結構強かったと思います。それはなぜかという、建設業と製造業がしっかり根を張っていたというところもあって、それは地域の特徴でもあるのだと思いますけれども、でも、いつまでも一緒なところでたじろいでいることはできなくて、進化していかなければいけないということで、この4つの施策を打ち出されたということだと思いますけれども、どこの視点からでも結構ですので、またご意見をいただきたいと思います。

委員

創業の促進と事業承継の円滑化のところですけど、事業承継の円滑化というのは、要するに廃業するのをやめさせるといふ、そういうような防衛的な、ガード的な話なんですかね。

創業の促進というのは、実際、何件創業して何件減ったとか、そういうようなのをトレースしていくということですかね。補助金を出すんですけど、具体的にはどういう感じなんですかね。イメージがもう一つ分からないんですけど。

部会長

基本的に福井県全体がそうなんですけど、創業、いわゆるアントレプレナーな人が少ないですね。学生ベンチャーも含めてあまり多くなくて、そこら辺はやはり促進していかなければいけないでしょうし。

もう一つ、事業承継については、日本全体そうなんですけど、下手したらここしばらくで3分の1ぐらいの事業所がなくなってしまうという中で、できるだけ事業承継を円滑にすることによって、これは国の考え方とまた地方の考え方は少し隔たりがあるんだろうと思いますけれども、何とか中小企業、小規模事業者が多い地域の事業承継を円滑にしながら、それを経済活性化に結びつけていくという意味だと思うんですね。どちらも非常に、まず最初はマイナスイメージから始まっていますので、それを少しパワフルに動けるような環境がくれたらいいのではないのかなというのは、そういう思いですね。

委員

例えばインターネットとかICTとか、そっちのほうの創業なんていうのは、福井ではあるんですかね。

副部会長

そうですね。小規模なのはぱらぱらと。

委員

当たれば、ばーっと広がる可能性だってありますもんね。

副部会長

鯖江市のほうがどっかというところすごく一生懸命、活発な感じがしますけどね。

部会長

今、副部会長がおっしゃったように、結構IT系は独立しやすいというところもあって、結構若者中心に

独立されるんだけど、閉じるのも多いということだと思うんですね。鯖江はIT産業というか、それを一つの錦の御旗というか、それを掲げて、第三次産業の中のそういう先端産業のところで特化したいというようなことをやっていますよね。

委員

いずれにしても、一次産業とか二次産業で創業して大きくなっていくというのはあまりお聞きしたことがないものだからね。だから、ここは難しいのではないのかなという感じですね。

副部長

今の事業承継で言いますと、うちなんかもそこはいろいろやっているんですけど、要は中小企業の事業をそのまま引き継いでやりませんかと言って、その会社を潰さないようにとか雇用を守るだけではなくて、モデルチェンジをして世代交代をしていただいて、経営者がまた新しい感覚で息を吹き返すというような企業の事例をいっぱいつくっていきこうというのが一つの方向なので、守りというよりも、次世代に引き継いでモデルチェンジした新しい事業、次の時代にまた環境変化に耐え得る事業承継をやっていくというような、そういうスタンスのほうが大事だと思うんですね。

ただ、中小企業がかわいそうなのでそのまま引き継ぎましょうということではなくて、黒字ではあるけど後継者がいないから辞めていくとか、自分の代であまり責任あるこういう商売はやっていくのはしんどいよねというふうになってきているので、そうではなくて事業の成長していく面白さもありますから、モデルチェンジをして新しい社会に適應する事業に生まれ変えていくというか、そういうことが大事なのではないかと思う。

委員

よく新聞で、福井市の事業承継の話も見るので。一つ考えがあるんですが、例えばUターン、都会に行っている学生たちが何かのイベントで帰ってきて、こういう農業あるいは企業の中で体験してもらって、その体験した後に何か新しい提案をしてくれると、いいものがあれば、さらにふるさとに帰ってきて実行したければそれを奨励したりする。そういうような活動とかがあるとうまく連携できるかなと。やはり若者の力、帰ってくるところが大事かなと思います。

部長

そうですね。要は、私は産業系、特に工業が研究領域なんですけれども、そのすごさというのを知らない若者も多いと思うんですね。若者だけではないかも分からないけど。どの産業もそうなんだろうけど、やはりそこを知ってもらって、体験してもらって、興味を持ってもらって、そして自分もやってみみたい、そういう流れをつくっていくということは大事だろうと。委員が言われるとおりでと思いますね。やはり知らない人に知ってもらおうというところから始めていかなければいけない。

さっき農業なんかでも、やはり地元の人が知らなかったらそんなもんというのと同じだと思いますので、それは大事な視点だと思います。

委員

私のほうからは、労働にも関係しますので、そういった視点ですけれども。

まず、Uターン、Iターンですけど、ちょうど今朝の福井新聞ですかね、鯖江の眼鏡会社のほうに山形県の女性が就職希望で、学生時代に見学し、卒業して就職したといったことが載っていました。それは商品に魅力があったので自分で調べて、そこにたどり着いたということのようなんですけれども。それはちょっとなかなかイレギュラーな形かと思うんですが。

やはり福井市、福井県全体もそうかもしれませんが、圧倒的に中小企業が多い中で、自社のPRがなかなかうまくできていないという状況があるんだろうと思うんですね。そういった情報がうまく発信で

きていない中で、当然、学生あるいは一旦都会等に出た方がまた戻ってこようにも、お互いに情報を発信できない、収集できないということがあって、そこでなかなかマッチングがうまくいかずに、それぞれでどうなのかなと思っている部分があると思うんですね。そこをいかにつないでいかといったことが、これは今に始まったことではないと思うんですけどね。以前からの課題だと思うんです。そういう部分でもう少し何らか行政としても何かできるものはないのかなということをおもいます。

それから、雇用環境で、今テレワーク、ちょうど昨年からコロナという形でクローズアップされていますけれども、例えば今、市内の中にも空き家というんですか、使われてないものがあると思うんですけど、例えばそういうところを簡単に改装して、例えばインターネット環境なんかを整えることによって、十分その環境でそこを使いたいというニーズなどももしかするとあるのではないのかなという気がします。そういったのは一つの例ですけど、やってみるのもいいのかなと思っています。

部会長

ありがとうございます。大変いいご意見で。そうですね。そういったネット環境というか、そういうビジネスに参入できる空間をつくってやるということですね。それも大事だと思いますので。ありがとうございます。

委員

たびたび観光の視点ばかりで大変申し訳ないんですけども。私、8年前に1回目の福井で勤務させていただいたときの経験なので、今はもしかしたら状況は変わっているのかもしれないんですが、当時もやはり福井と言えばものづくり、高いものづくり技術とか、それからものづくり産業の集積地というようなことでお話も伺っていたんですけども、実際それを県外から来たお客さんに見せたり触れたりするところがどこかないかなと思っていたんですが、意外となくて。販路開拓にしても新たな商品開発にしても、今後はオープンイノベーションで外の知見を集めて福井と融合して何か新しいものを生み出していくという発想でいけば、何らか福井のものづくり技術とか産業を外にアピールできる手段なり、場所なり、方法なりというのが何かあったほうがいいのかというのを感じました。

部会長

そのとおりだと思います。産業観光化というか、なかなか見せるところがないんですね。伝統的工業産業だと、ではどこを見に行くのかと言ってもなかなか工場も見せてもらえないかという感じで、そこら辺の何か仕掛けが必要なんでしょうね。

それと、福井は実は繊維に次いで化学が2番目とさっき出ていましたけど、もともものづくりでも中間品の製造が中心ですから、繊維もテキスタイルだし、眼鏡も枠だけです。その中で、化学産業だけは最終製品を作っていたんですね。今も日華化学株式会社や、フクビ化学工業株式会社をはじめ、最終製品を作っています。

そういう意味では、ここに書いてある「地域の商工業を振興する」の中で1番で「デジタル技術やオープンイノベーション」と書いてある、その後、最終消費財につながるような新技術とか、新商品の開発に力を入れていくということが重要なのではないのかなと思うんですね。繊維なんかはかなりそうなっていますけれども、まだまだほかの産業を見ると中間でとまっているところが多いので。結構、エンドユーザー相手に商売をされるところが増えてきましたけれども、まだまだ弱いので、そこら辺をちょっとここに書き加えていただけるといいのかなと少し思いました。

ありがとうございます。大変いいご意見です。ありがとうございます。

委員

先ほどからちょっと皆さんと重なる部分があるんですが、先ほど委員がおっしゃったように、自己成長する場を持つと思うと、やはり競わせる場づくりであったり、いろいろな部分が必要になってくるか

などに思っています。それが最終的には販売ということで、委員もおっしゃったような形の中で運営していくのがベストだろうというふうに思っています。

そのサイクルがうまくいってないという部分があるんで、どうしても対外的にはほかで知られない。そこら辺を整理しながらしていただくと、まだまだ福井のいい産業が、県外を含めた部分の中で伝わるのかなというふうに思います。

委員

施策③の「地元で働く魅力を発信する」ということで思ったんですけども、私は今、3回生でインターシップをするところなんですけれども、そのときにUIターンのときに直接見て触れて知ってもらのがいいと思うんですけども、今、コロナ禍の状態では知ってもらうことはできると思うんですけども、直接見たり、触れたりするという点が難しいと思うのです。そこで県外からの人たちにも見てもらうために…。

部会長

これは結構、観光との連携が必要なんでしょうね。産業観光の話がさっき出ましたけれども、委員が言ってることはよくわかりますよ、感覚的には。なかなか実感できないということでしょう。実感してもらうような仕組み、仕掛けをつくるということだと思いますね。

副部会長

産業観光で私はいいなと思ったのは、市が言われたことの中で、株式会社米五とかは、工場をリニューアルして、そこで体験でみそ造りや、夫婦みそとかをやっている。お客さんを連れていっても非常に喜ばれるし、ああいうのが福井市でもたくさんできるといいなと。

産業観光の振興というか、従来の製造業だけではないところに新たな要素を加えていくという育成というのが大事かなと思います。

やはりそういうものでリニューアルしていったり、経営者が若返ったりしてくると、自ずと人が集まってくる。そこに魅力を感じる若者も帰ってくる。従来型の薄暗い工場みたいなどころだと、今日び、もう生まれたときからエアコンの中で暮らしている若者にとっては異次元の会社みたいで、ここは何だろうというようなところで、労働環境は非常に大事なもので、そういう環境整備というのはやっていかないとけないんだろうなと思いますね。

これは質問ですけど、前の七次ときは市外企業の誘致とかあったんですけど、今回それどころではなくて、地元の中の求人が大切だから地元企業の事業拡大の立地を推進しますというふうに素案で考えられたのかなと思うんですけど、これは私達も迷うのですけど、市外の企業もどんどん来てもらってもいいのではないのかなと思うんですけどね。ここは何か思いがあるのでしょうか。

事務局

もちろん、市外からの新たな産業の立地というのは非常に大事なことであります。そのところは当然これからも最優先の課題として取り組んでいくこと、その視点に変わりはありません。

しかしながら一方で、やはり今まで各委員からもありますように、福井市はやはりものづくり産業が非常に盛んな地域でございますので、地元の企業がさらに成長していくところの後押しというのは私たちの大きな役割だろうというふうに思っております。

特に今、企業立地の戦略というものを持って進んでいるわけでございますけれども、それを進める中で、やはり私どもの期待を上回る形で市内の各企業が新たな投資をしてこられたというのがここ数年のトレンドでありますので、そういうところをさらに後押しをしていくということを一つ政策の柱に据えたいという思いで掲げたところでございます。

部会長

内外を問わず産業立地というのは進めていくということですよ。ただ、その中で地元企業の育成と
いうか、そういうことは特に当然力を入れていくと。

事務局

そうです。やはり雇用を守る面でも、それから技術の継承、サプライチェーンの連続といった点からも、
あるいは地元の企業が成長していくというのはやはり足元をしっかり固めるという点で大事なことから
いうふうに思っております。

部会長

ここに入るかどうか分からないんですけども、昨年、私が調査研究した中で、上期と下期で事業
所の大きな違いが見えたんですね。それは何かというと、さっき副部長も言っていた、事業承継は言
ったかどうか分からないけど、関連多角化戦略をしたいというアグレッシブな企業が上期より下期が
増えていたんですよ。それは多分、事業が若返りして、そういう形になってきたのかなと。

もともと福井というのは石橋をたたいても渡らない企業ばかりだったのが、少しそういうアグレッシブ
さが出てきて、そういった前向きな企業を支援していくことを示していく必要がやはりあるのかな
と。モラトリアム的な政策は必要なくて、生き残ろう、あるいは発展しようと思うような企業に対して、補
助金、助成金も含めて、技術ノウハウも含めて支援していくというふうな形が大事なのかなと改めて去
年思ったところなのですけれど。

それと、先ほども冒頭で言った、開発型企業が福井県全体でも増えてきたような気がします。もとも
と福井県というのは開発型企業が福井の産業をつくり上げてきたのですけれども、その動きがさらに
コロナ禍の中で強まったという面はあって、全国平均で見れば開発型企業なんて1割ぐらいしかいな
いと思うのですが、私が調べた中ではアンケートで500社ぐらいやったうちの100社ぐらいは新製品
を作っているということで、かなり製品開発に前向きに取り組んでいる企業があって、そこをさらに伸ば
してやるというふうなことですよ。そんなのを少し意識して入れ込む必要があるのかなという感じはし
ましたね。

副部長

施策④のところに、「多様な人材の能力を活用しながら、安定した労働力を確保するため、副業や
テレワーク」とあるんですけど、テレワークはいいのかなと思うんですけども、我々会議所の、会社の
経営者から見ると、副業には、ある面はいいのではないかと、でもなかなか全体的には、副業するなら我
が社のことを一生懸命まず考えてほしいよね、というような経営者の意見が多いんですけど。

それと、安定した労働力を確保するために副業と言われると、どうなのかなと。みんな仕事を減らせ
と言っていて、片一方で副業しろと言って、別に稼いでこいというふうには取られないかなと。

この言葉のつながりが、副業を否定するものではないんですけども、ちょっとどうかなと。

部会長

そうですね。そのとおりですね。気がつかなかったけど、これは東京を見過ぎですよ。東京と田舎とは
違うので。副業する人に、何で雇ってやらないといけないのか、というのがまだ福井の情勢ですから。

ここは変える必要がありますよ。私が言い切ってしまうと駄目なんですけど。これは本当、私は気がつか
なかった、おかしい。安定した労働力を確保するために。

副部長

考え方が古いのかもしれませんが、市が、事務局の方が考えられたイメージとなると、それな

らばというのがあるかもしれない。経済界の中では、まだ副業というのは、経営者の中では、残業手当もしっかり払うんだから、その分、新しい事業を考えてくれよ、というのが経営者の皆さんの思いではあるのですね。

部会長

そうですね。第二創業とか企業内ベンチャーとか、そこら辺を応援するというなら分かるけど、従業員が副業するのはあまり前向きに捉えたくないなというのが。私みたいな年寄りはその思うのかわらないけれども。

委員

副業というのは、もともと給料が本業のときにあまり自分の見合ったものではないのでやれるものであるんで、安定した労働力でもしやるならば、副業だと、どうしても本業を集中するので、副業だと多分パフォーマンスが落ちると思う。労働力的にはいいと思うんですけども、企業の成長には少し妨げになる可能性も否定はできないと思うので。

部会長

安心した。そうですね。

副部会長

県庁は副業を認めているのであれですけど、世界を見てくるという程度ならいいのでしょうけれども、ちょっとこのつながりだけ。副業を別で書くのならいいなと思っているんですけど、労働力を確保するという企業側というか社会的に立つなら、高度技能外国人の雇用を増やすとか、どうしてもそっちになる。そこを思い切って書くと。

事務局

新しい働き方とか、一人一人の状況に応じたというところに引きずられて、こういうふうな表現になってしまったような気がします。おっしゃるとおり、そういった部分がありますので。

ちょっとそのあたり文章のほうをまた整理させていただければというふうに思います。

部会長

そうですね。新たな働き方の追求というのは必要なので、それはいいと思うんですが、その前段階は、まだ早いのかなというか、産業構造が転換して、委員がおっしゃるように三次化が進んでいる中ではそういったこともあり得るのかも分からないけど、今の福井、先ほども出た製造業とかが大勢占める中では、少しまだ早いかなという感じはしましたね。

委員

少し今の話とずれるかもしれないけれど、職場、働き手の希望なんですけど、私は中国語を教えている中で受講生の方に感じるのは、例えば今までの事業や、さらに貿易を始めたいとかのために、語学や技術などのいろんな職業技能をスキルアップしないと駄目なんですけど、そういうところも常に、さっき事務局が言ったように、常に進化する社会になっていかないと駄目だと思う。その職業技能の講座、私は中国語の教室なんですけど、パソコン教室とか、貿易、あるいはそういう商業知識を教えている先生のところ、そういう補助金があれば、若い人がみんなもうちょっと気楽に自分のスキルアップできるような環境を整備するのもいいのではないかと思います。

部会長

そうですね。職業のスキルアップのための場はあるんですけど、気楽ではないんですよね。あんまり。

委員

そうですね。お金かかる。

部会長

お金もかかるし、その分真剣になっちゃうので、そこら辺少し遊び心を盛り込んだ、踏まえたような講座。リカレント教育というか、そういうものを通した人材育成みたいなことも大事ということですね。

委員

多分、若者が感じるのは、福井では少しファッション業とか娯楽とか外食が少ない。楽しみが少ない。この辺をもうちょっと増やすためにも、例えばコーヒーの入れ方教室とか、自分のカフェが気楽に開けるようなスキルでも、そういうような人材育成もいいのではないのかなと思います。

委員

私も言葉の話をしますと、施策①「地域の商工業を振興する」の3つ目なんですけど、ここに「ICTなどの成長産業の誘致」と書いてあるんですけど、これは少し言葉が足りないのではないのかなと思うのです。要するに、ここは何にも要らなくて、企業誘致と言えいいのではないですか。入ってくるような企業というのは、要するに成長している企業でしょうね。ICTというのは技術そのままの話だから、ICT会社というのは無い。

部会長

そうですね。ICTに染まり過ぎですね。これはICTというより、DX化が入ってないんですよ、ここに。

それはどこかに、今の委員の話の続きなんですけど、ICTなどは要らないかも分からないですね。「成長産業」だけでいいと思います。それと、「企業のDX化促進」というのはどこかで、商工業の振興の中か、そこで入れ込む必要はあると思います。

委員

例えば地元企業を知ってもらうということは当然大事だと思うんですけども、そのために広くインターンシップ制度があったりとか、場合によっては事業所見学とかもあると思うんですけども、ただ、ネックとなるのがどうしても個人情報であるとか、企業の秘密の部分はやはり見せられませんというところで、肝心なところを見ることができないとかいう部分もあるなというのは感じております。ですから、そういったネック解消のために何かできないかなと思うのは当然あります。これが一つです。

それと、今、若者という形で見ていますと、幾ら企業の魅力を発信したとしても、特に高校生あるいは大学生が就職するときに何が影響があるかという、親御さんの考え、影響力が大きいです。幾ら子どもがAという会社へ行きたいと言っても、駄目だよ、あなたはBへ行きなさいという形で、親が子どもの進路あるいは若者の進路を決めるというのがどうしてもあると思うんですね。ですからそういうことを解消するために、親御さんのそういった意識を変えていかないといけないのではないかな。

やはり親御さんは、福井の中でも名の知れた会社に行ったらどうだと、すぐ出てくるのはこれなんです。そうではなくて、本当に魅力があって、こういう特徴のある会社さんへ行ってみたらどうですかという形で、我々はそういった相談しているときにお勧めすることは当然あって、そちらに行くということもありますけれども、いかんせん親御さん、我々の年代か、また上の方も多いと思うんですけども、どうしても特定の会社とか、ある程度名の知れたに行きなさいとかという形で、どうしてもそちらに流れてしまう。もっといい企業のほうにはなかなか流れていかないというのがありますので、そういった本人ではなくて家族、特に子どもの親とかに対する企業のPRといいますか意識改革というの必要なのではないかなというふうには思います。

部会長

ありがとうございます。

地域社会においては、そういう親御さんのご意見は結構大きいでしょうね。子どもさんが行く上で、そこら辺をある程度、魅力のある企業がたくさんあることを知らしめるということも大事な施策になるのですね。それと先ほどの情報開示の話ですけれども、これはやはり福井に来られて、結構クローズされたところが多いというのを感じられたということですか。

委員

一般的な話というふうに捉えてください。別に福井だけではないですけど。どうしても、そういった企業とすれば、ここはちょっと見せられませんかとか秘密保持があって、ここは駄目だと。本当はそこを見たいという学生さんとかがいるのかもしれませんが、そこは駄目ですというところがあって。

部会長

そうですね。先ほども委員がおっしゃっていたオープンイノベーションを推進するためにも、それはすごくやりにくくなりますよね。そんな感じも今しましたけど。

委員

私が勤めていましたJTBという会社も東京に本社がありまして、昨年1年間、本社で働いている人間はほとんどリモートワークに切り替わって、もちろんお店の現場の社員はなかなかそういうわけにできなかったのですけれども。仕事の中でも本社の統括機能の部分の仕事は、結局リモートで大概のことができるということが分かって、今まで2時間もかけて会社に通勤して自分は何をしていたんだろうと、改めて自分の働き方について深く考えるきっかけになったというのをよく聞きました。それで今後、全ての仕事ではないにしても、そういう考え方が世の中に浸透していくと、何も東京、大阪で働くことだけが全てではないというような世の中が、もしかしたらちょっとずつ近づいてきているのかなというのをすごくリアルに感じたりしています。

部会長

それで言うと、「ニューノーマルの時代にふさわしい雇用環境の整備」とか、そういうこともキーワードになるのかなと今思いましたね。ありがとうございます。

委員

施策④ですね。最近、若い人も全て踏まえてライフスタイルが変わってきていると思うんですが、ライフスタイルに応じた環境整備という部分が出ていますが、最近私たちのところにも、若い人とかいろいろ入ってきて、いろんな整備体制的なものが非常に問題重視されている部分が多いんですが、一つ例を挙げて、こういう具体策があるんだという部分をお聞かせ願えたらよろしいかなというふうに思うんですが。

部会長

どうですか。これは難しいですね。今からの時代なので、なかなか模範となるような事例が。ニューノーマルの時代というか、そういうことになるんでしょうけれども、そこでの働き方とか。

事務局

ここの部分は、恐らくどこの世界も手探りのところはあるんだろうと思いますが、一つには、今の若い世代の方に受け入れられる職場をつくっていくという必要があると。これは私たちのほうが発想を変えなきゃいけないんだなというふうに思っています。

うまく言えないんですけど、定量化されていないというか、見える化されていない仕事のやり方とか、

そういうものはなかなか今の時代、通用できなくなっていて、一つ一つの手順を明確にするであるとか、きちんとどういう理屈でどういうことをするんだといったようなところを見える化することが大事なのかなというふうに思います。そのことは若い方だけではなくて、新たな業種から入ってこられる方とか、あるいは外国人の方とか、いろんな方が日本で、福井で活躍をしていただける環境づくりというのの一つつながっていくのかなというふうには思っています。

もう一つ、コロナのニューノーマルへの対応となりますと、なかなか…。

部会長

コロナ=ニューノーマルではないですね。コロナ禍を脱することがニューノーマルではなくて、もう少し広い意味のニューノーマルというか、先ほど出張しなくても済むんだと。リモートにしちゃえば済むんだと。それが新しい時代の生活の仕方だし、働き方になってくるんだらうと思うのですね。

コロナ禍というのは、多分、一過性のものだけれども、そこで私たちが学ぶことというのは、何度も言っている命の大切さ、それに関連する産業、あるいは命、サービス業で言えば、ある方は心を守ると言われましたけど、そういう時代が来た。それを代表して「ニューノーマル」という表現をしているんだらうというふうに私は取っているのですけれども。

ただ、これからの時代なので、委員がおっしゃられた模範となるような事例というのはなかなか難しいなというような感じはしますけどね。いろんな可能性は秘めているのでしようけれども、これだというのはなかなか今言えない。

委員

今、世間ではフレキシブルタイムといって週休3日制が導入検討されていて、その分、お給料が変わらなければいいんですけど、それでお給料が減らされるとまた話が変わって行って、それがどうしても副業とかにつながってしまうので、できれば今までどおりの日本の形態で働ければと。私の個人的な言い方なんですけれども。

部会長

大事な考え方だと思いますよ。新しいものばかり望んでも、やはり経済力が伴わないとやっていけないので。ありがとうございます。

商工業って私たちに身近なので、いろんな視点でいろんな課題も見つかるし、課題と同時に、将来に向けた夢、希望というのも出てくるので、いろんな書き方がありますがけれども、いろいろご意見を聞いた中で、一つだけ直していただきたいのは、施策④の先ほどの副業、テレワークのところはまた考えていただきたいと思いますし、あといろいろキーワードもたくさん出てきたような気がします。

産業立地、市外からの立地も大事だし、もうちょっと幅を持たせた考え方ですね。

それから、産業の観光化も、これは表現できるのかな。難しいね。産業の見せる化というか、企業の見せる化というか、そういうことも委員からご意見としていただきましたし、委員からは気楽に参加できるようなレクチャーの場とか、そういう話とかいただきました。

とにかくもう少し福井県の商工業、クローズから少しオープンにして見せる化によって知ってもらって、それが企業を知ってもらうことで、その企業自体もプラスになるし、そこにまた働き手も確保できる対策にもつながるといことだらうと思いますので、そこら辺も念頭に置いた全体の修正というか、それも加えていただいたらいいかなというふうに思います。

かなり時間も押してきましたけれども、政策9、10に関して、もう一度9も振り返りながら全体として何かお話があればお願いしたいと思いますが、どうでございますか。どんな視点でも結構ですが、よろしゅうございますでしょうか。

副部長

今の修正の中で、施策①の2つ目の「・」にある「繊維をはじめとした」云々の発信し、担い手の確保につなげるというのと、施策③の2つ目の「・」のところと、観点は違うのか、若い人にと書いてあるので、ここを一本にして、さっきの製造業の産業観光化とか、その促進とか、そんなのを1番に入れるとどうでしょうか。

部長

そうですね。労働系でこれを一つにまとめられるといいですね。

施策①の2つ目と施策③の2つ目ですね。ここを一個に丸められないかなと。そうすると、1個、商工業の振興のところで、先ほど出た意見を集約してまた1個入れられるのではないのかなというご意見です。大変いいと思います。

よろしければ、時間も参りましたので、本日の議事についてはここで終了とさせていただきたいと思えます。あとは進行を事務局にお任せしたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

6. 閉会

司 会

ありがとうございました。

事務局から、次回の専門部会の開催日時についてご連絡いたします。

次回は、5月11日火曜日13時30分から、本日と同じこの会場で行う予定でございます。委員の皆様のご出席をまたよろしくお願いいたします。

本日は、長時間にわたりましてご審議いただきまして、ありがとうございました。

(以 上)

第八次福井市総合計画審議会 専門部会 第3分野(第1回) 出席者名簿

第3部会 産業分野

※委員50音順、敬称略

		氏名	備考	出欠
福井市総合計画審議会	部会長	南保 勝	福井県立大学 教授	○
	副部会長	高見 和宏	福井商工会議所 専務理事	○
	委員	荒川 忠弘	福井労働局 福井公共職業安定所 所長	○
	委員	荒木 敬司	(公社)福井県観光連盟 観光ネットワーク推進事業部長	○
	委員	小川 久美雄	JA 福井県 福井基幹支店 支店長	○
	委員	高田 朋拓	福井県立大学 学生	○
	委員	八田 一以	市議会議員	○
	委員	羅 婷婷	外国人事業家	○
市	委員 総合計画策定	橋本 亜由美	商工労働部 次長	○
		松原 為之	農林水産部 次長	○
	事務局	中村 直幸	総合政策課 課長	○
		村本 幸恵	総合政策課 副課長	○
		南 研一郎	総合政策課 課長補佐	○
		國定 慎吾	総合政策課	○
		島出 浩太	総合政策課	○
		前田 恵里	総合政策課	○